テーマ名 ： DI業務を充実させ、医療の安全性を高めよう！

（財）小倉地区医療協会　三萩野病院　　薬剤科　　発表者　木原（きはら） 朋代（ともよ）・浦中（うらなか） 浩光（ひろみつ）

テーマ選定理由

病院理念	薬剤科方針	サークル方針
患者様本位の医療サービスを提供します	効率的な業務を確立します	確実に維持する対策を実施します

評価点	10 方針 病院理念	9 方針 薬剤科方針	8 方針 サークル方針	ウエイト付け 方針管理 評価項目 問題点・課題点 ◎＝5点　○＝3点　△＝1点	4 改善要求度 緊急度	3 改善要求度 重要度	5 改善要求度 実現度	5 メンバーの能力 解決力	3 メンバーの能力 期間内終了力	評価点	総合評価点	順位
97	○	◎	◎	他職種からの問い合わせに対して情報共有がされていない	◎	◎	◎	◎	◎	96	193	1
63	△	◎	△	期限切れ薬剤が多い為、病院にコスト的負担をかけている	○	◎	△	◎	△	54	117	6
99	○	◎	○	処方薬を病棟に払い出すのを忘れた為、病棟に迷惑をかけた	◎	◎	○	○	○	74	173	2
85	◎	○	△	病院薬剤師・薬局薬剤師間で患者情報の共有が出来ていない為、薬薬連携が出来ていない	○	◎	○	△	△	44	129	5
85	◎	○	△	退院指導の説明が不十分な為、退院後患者様から質問の電話がある	○	◎	○	◎	◎	82	167	3
99	○	◎	○	薬剤科から出る廃棄物の量が多い為、エコでない	△	○	○	◎	◎	68	167	3

図-1.テーマ選定のマトリックス図

マトリックス図の評価基準

【病院理念／薬剤科方針／サークル方針】
◎沿っている　○一部沿っている
△沿っていない
【緊急度】
◎早急　○普通　△急がない
【重要度】
◎重要　○普通　△重要ではない
【実現度】
◎実現可能　○一部のみ実現可能
△実現不可能
【解決力】
◎できる　○できそう　△できない
【期間内終了力】
◎期間内　○短期間　△長期間

メンバー全員で、
日頃困っている事、
問題だと思う事など出し合い
整理して評価した結果、
『他職種からの問い合わせに
対して情報共有がされていない』
が1位になった。（図-1）

取り組む必要性の明確化

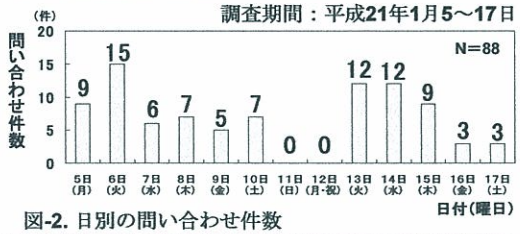


図-2. 日別の問い合わせ件数

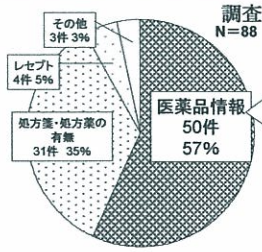


図-3. 内容別の問い合わせ件数

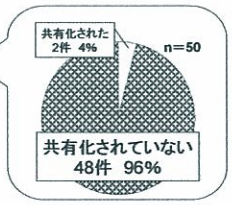


図-4. 共有化の有無

毎日、薬剤科には他職種からの問い合わせがあり（図-2）、医薬品に関する問い合わせは調査期間中で50件あった（図-3）。
その50件のうち、薬剤師間で情報を共有されていたのは、わずか2件（4%）しかなかった。（図-4）

薬剤師間で医薬品情報（DI）を共有化する事で得られる利益は、次のような事が挙げられる。

Ⅰ．薬剤師間の知識統一が図れる為、知識水準の向上に繋がる。
Ⅱ．個々の薬剤師が保有している情報を基に、DIをデータベース化する事ができる。

上記の事が可能になれば、医師や看護師らに、より適切な助言を行える様になると考えられる。
また、今以上に他職種へ情報を提供すれば他職種の医薬品に対する知識も向上し、
リスクマネジメントの一助となり、患者様への医療の安全性を高める事ができる。
しかし、当院のDI担当者は専任でなく兼任であり、DI担当者に情報が集積しにくい現状がある。
そこで、薬剤科に集積した情報を薬剤師間で共有し、管理するシステムが必要だと考え
DIの共有化に取り組むことにした。

QCストーリーの判定

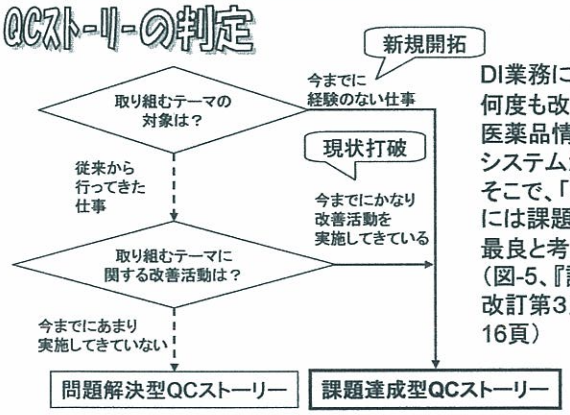


図-5. QCストーリー判定手順

DI業務については今まで
何度も改善してきたが、
医薬品情報を共有化する為の
システムが充分でない。
そこで、「現状打破」と「新規開拓」
には課題達成型QCストーリーが
最良と考えた。
（図-5、『課題達成型ストーリー
改訂第3版』日科技連、1999、
16頁）

サークルチーム名　金米糖サークル（平成3年4月 結成）　テーマ歴：35件目					
リーダー氏名（職種）	木原 朋代（薬剤師）	所属部門	医療技術	月当たり会合回数	5回
リーダー経験年数	5ヶ月	QCストーリー	課題達成型	平均会合時間	60分
メンバーの数	計5名　うち 男2名 うち 女3名	活動内容	安全	平均会合出席率	98%

テーマ名の決定　DI業務を充実させ、医療の安全性を高めよう！

目標設定

表-1.目標設定

何を	医薬品情報共有システム	根拠	医薬品情報を共有する事で業務が充実し医療の安全性が高まる
いつまでに	平成21年3月31日		
どうする	100%構築		

活動計画

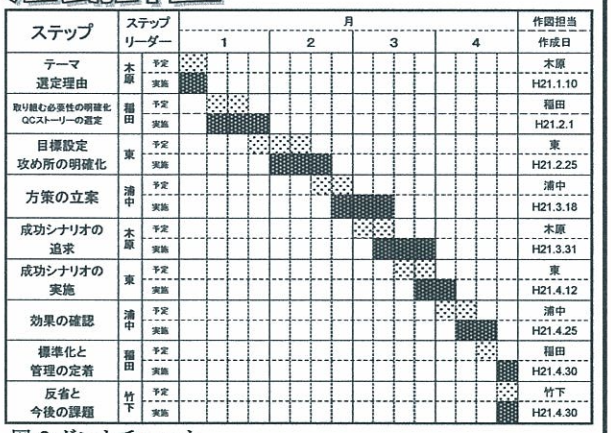


図-6.ガントチャート

攻め所の明確化

「ありたい姿」や「現在の姿」をどのような項目によって捉えるべきか悩んだ為、「ありたい姿」(図-7)と「現在の姿」(図-8)のフロー図を作成し、両者を比較した。
この時に出た意見を親和図法によってグルーピングし(図-9)、そのカード群を代表する4項目を特性項目に決定、攻め所シートに整理し、ギャップと攻め所を決めた。(表-2)

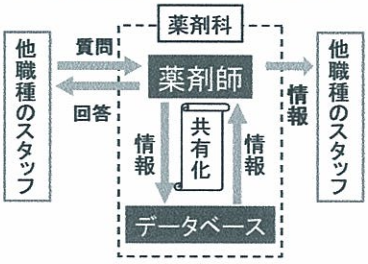


図-7.「ありたい姿」
医薬品情報のフロー図

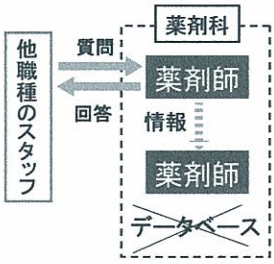


図-8.「現在の姿」
医薬品情報のフロー図

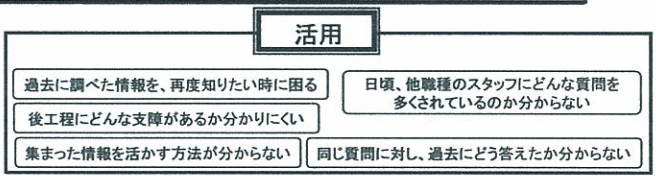
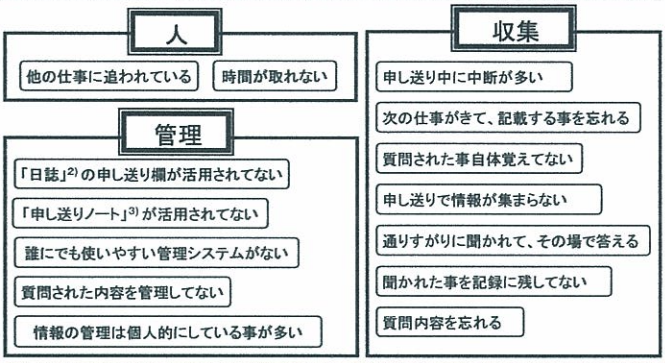


図-9.「現在の姿」の親和図



注釈2) 申し送りの内容を記録するノート
注釈3)薬剤師間で申し送る為の伝言ノート

表-2.攻め所選定シート　　調査期間：平成21年1月5～17日

	特性項目	ありたい姿	現在の姿	ギャップ	攻め所	No.
特性	医薬品情報共有システムの構築	100%	0%	－	－	－
特性を実現させる項目	人	4名(薬剤師)	4名(薬剤師)	－	なし(前提条件とする)	-
	収集	他職種からの質問と回答を100%収集する	4%(2件)	96%	質問と回答を収集する方法を作る	①
	管理	収集した情報を100%管理する	4%(2件)	96%	「申し送りノート」を活用する為の工夫をする	②
					「申し送りノート」以外の管理方法を構築する	③
	活用	管理した情報を、薬剤師(4人)が100%閲覧できる	0%(0人)	100%	管理した情報を閲覧する為の手段を作る	④
		管理した情報を、他職種に還元する	還元していない	100%	情報を他職種に還元する手段を作る	⑤

方策の立案

表-3.方策の立案

◎=5点　○=3点　△=1点

No.	方策案	期待効果 解消可能性	期待効果 効率性	期待効果 利便性	総合評価	採否	No.
①	質問された内容を暗記し、口頭で報告する	△	○	○	7	否	-
	質問された内容を各個人で紙にメモをし、報告する	◎	○	◎	13	採	Ⅰ
	レコーダーに音声で録音し、報告する	△	○	△	5	否	-
②	申し送り時に、質問と回答を「申し送りノート」に記入し管理する	○	△	△	5	否	-
③	表計算ソフトに質問と回答を入力し管理する	◎	○	△	9	否	-
	データベースソフトに質問と回答を入力し管理する	◎	◎	◎	15	採	Ⅱ
④	表計算ソフトで検索する	○	◎	△	9	否	-
	データベースソフトで検索する	◎	◎	◎	15	採	Ⅲ
	パソコンのデスクトップに貼り付けて利用する	△	○	○	7	否	-
	院内LANを利用する	△	◎	○	9	否	-
⑤	**担当者が毎月第一月曜日にDIニュースを発行する**	○	◎	◎	13	採	Ⅳ
	当番制で毎月第一月曜日にDIニュースを発行する	○	○	◎	11	否	-
	臨時の印刷物を発行する	◎	△	○	9	否	-
	必要時に、各所属長宛にメールでDIニュースを送信する	◎	◎	◎	15	採	Ⅴ
	病院ホームページの職員用掲示板にDIニュースを掲載する	◎	◎	◎	15	採	Ⅵ

期待効果の評価基準

【解消可能性】
◎実現可能　○一部実現できる　△実現不可能

【効率性】
◎効率的　○やや効率的　△効率的でない

【利便性】
◎利便的　○やや利便的　△利便的でない

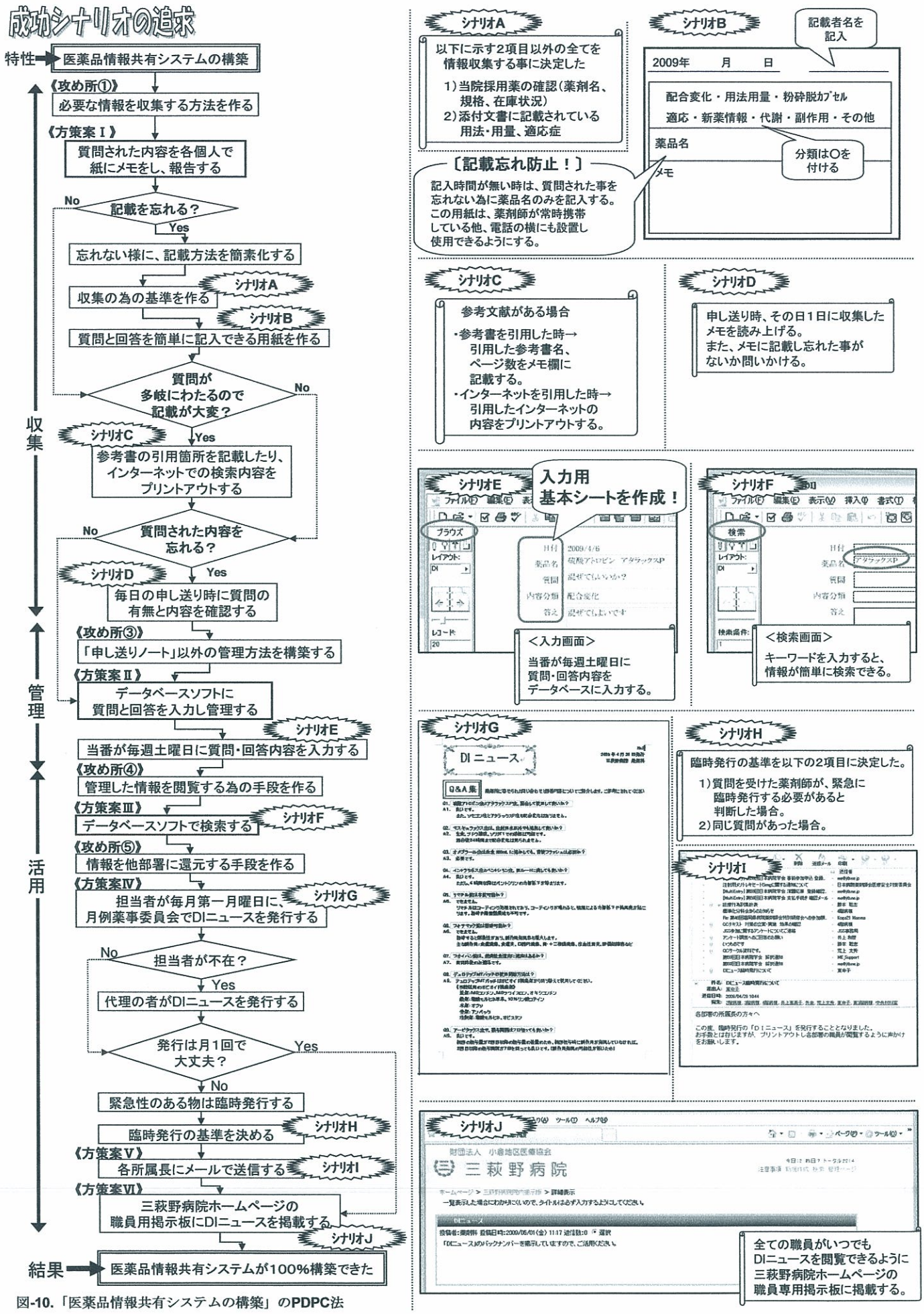


図-10.「医薬品情報共有システムの構築」のPDPC法

成功シナリオの実施

表-4. 5W1H

成功シナリオ		何故	いつ	どこで	誰が	何を	どうする
収集	A	必要な情報を収集する為	3月31日までに	薬剤科	全員	収集の為の基準	作る
	B				木原	質問内容を簡単に記入できる用紙	作成する
	C		問い合わせ時		全員	質問と回答	用紙に記入またはプリントアウトする
	D		毎日の申し送り時		申し送り担当者	質問の有無と内容	確認する
管理	E	「申し送りノート」以外の管理方法を構築する為	毎週土曜日		当番	質問・回答内容	データベースに入力する
活用	F	管理した情報を閲覧する為	問い合わせ時		問い合わせを受けた人	問い合わせに対する回答	データーベースソフトで検索する
	G	情報を他のスタッフにも還元する為	毎月第一月曜日	月例薬事委員会	担当者	定期のDIニュース	発行する
	H	月1回のDIニュースでは不十分な為	3月31日までに	薬剤科	全員	臨時発行の基準	決める
	I	全スタッフに情報を還元する為	臨時のDIニュース発行時		担当者	臨時のDIニュース発行のお知らせメール	送信する
	J		DIニュース発行時			DIニュース	三萩野病院ホームページの職員用掲示板に掲載する

効果の確認

【有形効果】

調査期間：平成21年4月10～22日

☆ 収集 ☆

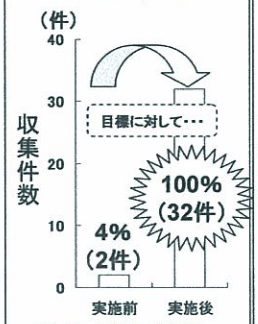


図-11. 医薬品情報収集件数

☆ 管理 ☆

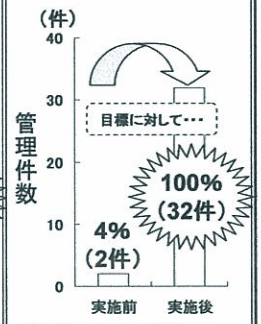


図-12. 医薬品情報の管理状況

☆ 活用 ☆

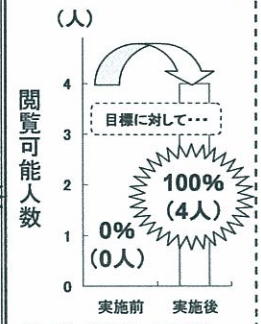


図-13. 管理した情報閲覧可能率

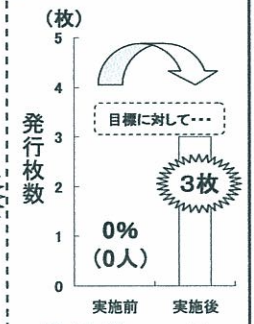


図-14. DIニュース発行枚数

【無形効果】

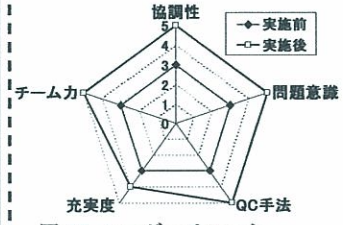


図-15. レーダーチャート

医薬品情報共有システム100%構築!!

課題達成！「収集、管理、活用」全ての項目において、「ありたい姿」と「現在の姿」のギャップを克服する事ができた！

【波及効果】

薬剤科からの声

- データベースを利用することで、調べる時間が短縮された。(図-15)
- 情報を共有化することで、自分の知識レベルの確認ができた。
- 他の薬剤師が調べた知識も自分の物にする事ができた。

調査期間：平成21年4月10～22日

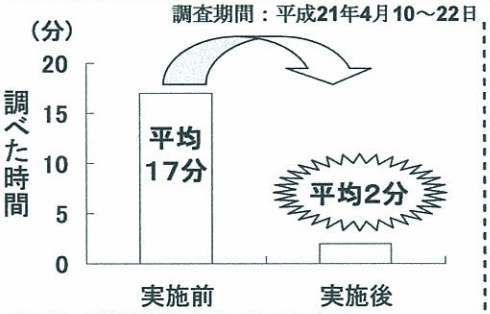


図-16. 対策実施前後での調べた時間

「DIニュース、役に立ちました」と言う声が、看護師より多数届いた。

例えば、配合変化や粉砕の可否について掲載した際、薬剤師が気付く前に、看護師が気付く事ができた。

↓

看護師による確認が行なえた。

↓

他職種の医薬品に対するリスクマネジメントの意識向上に寄与できた。

標準化と管理の定着

表-5. 5W1H

	何故	いつ	どこで	誰が	何を	どうする
標準化	医薬品情報共有システムを維持する為	4月25日までに	薬剤科	木原	医薬品情報共有システムのマニュアル	作成した
教育		新入職時		教育担当者	医薬品情報共有システムの流れ	説明・指導する
管理		月末		所属長	データベースへの入力件数	集計する
		第一月曜日			定期DIニュースの発行	確認する
		必要時			臨時DIニュースの発行	

反省と今後の課題

表-6.

	良い点・反省点	今後の対応
サークル運営面	○会合でメンバー全員が活発に意見し合う事ができた	今後も積極的な意見交換ができる雰囲気をつくる
	○全員参加の会合を多く開けた	全員のシフトを考慮し会合を開く
	●予定通りに活動実施ができなかった	計画立案時、余裕を持った計画を立てる
テーマ解決のステップ面	●取り組む必要性の明確化：第三者にもわかりやすくまとめるのに苦労した	第三者の意見に、より一層耳を傾ける
	○攻め所の明確化：活発な意見交換ができた	今後も積極的な意見交換ができる雰囲気をつくる
	●方策の立案：革新的な方策がなかなか出なかった	他施設の薬剤師とも連携をとり良い方策がないか模索する

これからは、更に活用しやすいシステム作りや、他職種への情報提供の強化を図っていきたい。
また、「DIハンドブック」を作成する等のもっと革新的な業務につなげて、更なる医療の安全性向上に努めたい。